

建設防災 ボランティアニュース 第 86 号

目次

- ・ 年頭の挨拶
- ・ 河川愛護月間行事
- ・ 施設見学会
- ・ 橋と土木展
- ・ ミニツアー研修会

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。



新年を迎え、会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますとコロナ禍も過ぎ去り、これまでの日常が戻って来て、当

協会の活動も順調に進められました。しかし、元日の能登半島における大地震、9月の奥能登豪雨をはじめ日本各地では大規模な災害に見舞われました。幸い東京では大きな災害はありませんでしたが、いつ何時大災害が起こるか分かりません。

そこで秋にはリーダーはじめ会員各位のご協力により、初めて緊急連絡訓練を実施しました。

連絡手段などは実状に即せる様、改善を図り日常の協会活動にも活用したいと思います。

また、近年の会員の高齢化、会員数の伸び悩み、緊急時の活動体制など当協会が対面する問題、課題に積極的に対応して行くために東京都建設局はじめ関係各機関と協議を進めてまいります。

当協会の役割に期待する多くの声に応え、安定的に事業を継続していくとともに、災害時には真に有効なボランティア活動を目指すためにも、会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年も引き続き東京都建設局、(公財)東京都道路整備保全公社、(公財)東京都公園協会の当協会への更なるご理解ご支援

を賜ります様お願いするとともに、一層のご発展を祈念申し上げます。また会員各位の今年一年のご健勝をお祈りし、重ねて当協会活動の充実に向けご協力をお願い申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。



令和7年 睦月
会長 山口 明

令和 6 年河川愛護月間行事総括

今年も河川愛護月間の各イベントが、7月6日の「環七地下の巨大トンネルを体験」を皮切りにスタート、酷暑が続いた8月末までに「黒目川-わくわく川掃除」、「夏休み多摩川教室」、「川のパネル展」「川を考えるシンポジウム」と5つの行事に参加しました。

残された行事は、10月に入り「川を歩こう」-多摩川、旧中川、隅田川、石神井川の4つが終わりました。今年には北南建の「野川のちびっこ先生集まれ」、「生きもの観察会」、河川部の「かわフェスタ」(井の頭公園)が休止となり、南西建の「南浅川」は、応援依頼が無く不参加となりました。

7月から10月まで、協会員の方は、延べ9行事に38名が参加し、これまでの豊富な河川行政経験をもとに参加した都民の方へ貴重な話題を提供し、川の防災と愛護精神を高めていただきました。ありがとうございます。

河川愛護月間行事担当理事 高橋紀男

川を歩こう「旧中川コース」

「旧中川を歩こう」に参加して

本イベントは令和6年度「河川愛護月間」の取組の一環で～生まれ変わった旧中川を歩こう～として10月12日(土)午前中に江東治水事務所主催で開催され、ボランティア協会からは五建班の内野、藤田の2名が参加しました。

多数の応募者から当選された36名を2班に分けてご案内。都営新宿線「東大島駅」に9時30分集合、事務局から注意事項を伝達、江東治水事務所渡利内部河川工事課長の挨拶後、最初の説明地点「荒川ロックゲート」へ向けてスタート。



途中、「川の駅」、「逆井橋」を経て12時過ぎに「亀戸中央公園」に到着。参加者にアンケートに記入して頂き解散。トラブル、事故も無くイベントは終了しました。

ポイントでの若手職員による丁寧な説明に、参加者も真剣に耳を傾け聞き入っていました。事前の準備も大変だったと思われそうですが、江東治水事務所の皆様による用意周到な準備により、参加者も満足して帰って頂けたのではないのでしょうか。

当日は天候にも恵まれ、ボランティアというより一参加者として、気持ちの良い休日



日を過ごさせて頂きました。道路事業に携わってきた自分にとって「旧中川を歩く」ということは今回参加しなければ、一生経験がないという可能性

も…。

「旧中川はどこが管理」、「なぜ旧なの」と???から始まりましたから。こんなボランティアで江東治水事務所の皆様にはご迷惑をおかけしました。

川の整備も奥が深いですね。新しい発見の可能性を楽しみにしながら、ボランティア活動に参加するのも良い、とつくづく感じました。ただ、河川事業「ど素人」の自分ができることは、参加者の皆さんに安全に楽しんで頂くことだけで、それを全うすべく誘導・声かけをしていました。

一方で、これは道路も含めての想いで、東京のインフラ整備は着実に進んでいます。安全性・利便性を高めるため、複雑な構造物に頼らざるを得ないところに逆に脆弱性を感じてしまいます。未来永劫、維持管理の責を負う、という永遠の課題もありますので…。

AI ではないですが、人が介在しない世の中が到来し、そんな心配は一掃される！のでしょうか？それが本当の解決策なのか自分には分かりません。将来世代の仕事はどうなっていくのか想像もできないですが、仕事のやり方が大きく変わっても、苦労した分、今まで同様「やりがい」が感じられる世の中であって欲しいものです。

五建班 藤田政彦



川を歩こう 「隅田川コース」

に参加しました

令和6年10月19日（土）の観測史上、最も遅い真夏日（30℃超え）に、隅田川で河川愛護月間関連行事「川を歩こう」が第一建設事務所・



【ルート図】

第五建設事務所・江東治水事務所共催のもと実施されました。

ボランティア協会からは、一建班と五建班から3名（以下敬称略：石坂、杉橋、清水）が、早朝より東京水辺ライン両国リバーセンターに集合し、当日の行程や役割などの説明を受けた後、両国駅から会場までの案内サポートをしました。

この川を歩こう「隅田川コース」は、人気のプログラムで

100名の参加者に対して約2.5倍の



応募があったとのことで、最終的に78名の方が参加され、大変な盛況となりました。

まず、東京水辺ラインの水上バスに乗船し、両国～桜橋～越中島の約1時間のクルージングから行われました。船内では、リバーガイドからの隅田川や沿川の神社仏閣、歴史などの説明に耳を傾けたり、展望デッキでは、心地よい川風を感じながら、橋梁や東京スカイツリーの景色を眺めるなど楽しいクルージングとなり

ました。

越中島発着場で下船し、越中島公園～大川端地区～明石地区の約2kmの道のを3班に分かれ、ミニツアーの開始です。



ミニツアーでは、各自がイヤホンガイドを装着し、各事務所の説明担当者より高潮対策や耐震対策の重要性や取組状況などについて丁寧に説明されていました。また、スーパー堤防、テラス整備など水辺に親しむ環境の整備や隅田川の水質、相生橋など徒歩ルート内の橋梁についても分かりやすく話されていました。

解散場所の聖路加タワーでは、参加された



方々からスタッフに、非常に楽しかったです、有意義でしたなどのお声がけされているのを拝見しました。参加されましたスタッフの皆さまお疲れさまでした。また、来年も隅田川の魅力を広く都民に知っていただくプログラムのお手伝いをしたいと思います。

五建班 清水幸一



川を歩こう「多摩川・奥多摩コース」

鳩の巣溪谷と白丸魚道

10月12日（土曜日）、西多摩建設事務所主催の「川を歩こう（多摩川・奥多摩コース）」に参加しました。一般参加者は36名、中高年のご夫婦や家族連れなどです。受付では行動を4班に分類する色別のリボンを渡されて時間差出発となります。



スタッフ一同！

出発前には、牧野課長代理の進行で岩田工事第二課長のご挨拶や、奥多摩観光協会登録「名人達人観光ガイド」さん6名の紹介などがありました。

コースは、鳩ノ巣溪谷～白丸ダム～白丸魚道の約2kmです。沿川には、双竜の滝、昔を偲ぶ旧割烹旅館街…、制限人員5名の吊り橋、心臓破りの20m急登階段などがあり運動不足の体にはタフなコースでしたが、名人達人ガイドさんの興味深い説明と自然環境を満喫し、心地よい汗をかきました。

また、日本一の落差がある白丸ダムの魚道では、西建職員さんの説明に従って普段は立入禁止エリアに入り、魚道の最下流部まで行くと眼前に広がる溪谷美に参加者一同ウオーと感嘆し大満足でした。



ダム下流部の魚道



魚道最下流部

好天に恵まれ、日中は夏日を思わせる暑さになりましたが、参加者もスタッフも笑顔があふれ、充実した川を歩こうとなりました。

最後に主催者の皆さんのご尽力と参加者全員の無事に感謝いたします。

西建班 根津和近

川を歩こう「石神井川コース」

に参加！

令和6年10月19日（土曜日）、河川愛護月間行事の一つである「川を歩こう（石神井川コース）」が開催されました。四建・六建の合同開催で、今年六建が事務局です。

当日は、10月半ば過ぎというのに、気温30度に迫る好天の中、約4kmの道のりを歩きます。



六建・安部副所長の挨拶

抽選で選ばれた

28名の参加者と四建・六建職員、建設防災ボランティア3名（小林・西村・岡上）が二班に分かれ、集合場所である板橋区役所を10時に出発し、旧中山道仲宿の痕跡を巡りつつ板橋へ。ここから石神井川右岸沿いを下流へ向かい、旧川跡や崖線などを辿りな



がら、王子駅近くの音無親水公園を目指します。



音無もみじ緑地を歩く

職員による、加賀藩下屋敷(後の陸軍板橋火薬製造所)の歴史や地層の自然露頭の解説などに耳を傾け、休憩場所の公園では、藪蚊の大群に吸血を強要されながら、約2時間半の行程を無事終了しました。

道中、バンクシーの新作?と思われるアートも発見。興味のある方は、是非同じコースを歩いて探してみても如何でしょうか。



バンクシーの新作?

アンケートでは、「説明が良かった」、「今後も続けてほしい」との感想をいただき、参加者一同笑顔で家路につきました。

参加の皆様、案内の皆様、お疲れ様でした。

私事ながら、この直後、紀州熊野三山へ初めて行きました。石神井川の下流はかつて音無川と呼ばれていましたが、これは王子神社の勧請元である熊野本宮大社(若一王子社)を流れる音無川が由来です。深淵たる熊野の音無川を眺めつつ、石神井川に思いを馳せ、感慨に耽ることができました。



小林さん 西村さん 岡上さん

六建班 岡上樹

ご協力ありがとうございました

河川部計画課

東京都建設局では、毎年7月の「川の日」(7月7日)及び「河川愛護月間」(7月)を中心に、都内各地で都民の河川愛護意識の向上を目的とした各種行事を行っています。

令和6年度は、“川を歩こう”や“施設見学”、“東京の川を考えるシンポジウム”などのほか、市民団体や区市等と連携した清掃活動や自然観察会等を合わせ、合計18行事(中止1行事)を実施致しました。各種行事とも、非常に多くの都民の方々にご参加いただきました。

日頃何気なく眺めている川の歴史や成り立ち、普段見ることのない地下調節池の存在やその効果など、東京の河川事業に対する意識や川に対する愛着を醸成して頂くとても良い機会となったのではないかと思います。

これら行事の開催にあたっては、東京都建設

防災ボランティアの方々にも多大なるご支援を賜りました。スタッフとしての参画に留まる事なく、長年のご



狩野課長代理

経験の中で培われた貴重な知識や見識をご披露頂き、参加者、職員に新たな発見や気づきを与えて頂いたと感じております。

今後も、東京の河川事業に対する理解を深めて頂くとともに、川への愛護意識を醸成して頂けるよう各種行事のブラッシュアップを図って参りたいと考えております。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

河川部計画課課長代理(環境計画担当)

狩野学

100段の階段の先には 施設見学会

11月26日(火)秋晴れの中、第二建設事務所の協力をいただき、谷沢川分水路及び等々力大橋(仮称)の見学会が開催されました。

40名の参加者が二子玉川駅に集合し、バスに乗り



込み、スタート。ほどなくして、分水路工事現場に到着、二建林所長の温かい出迎えを受け、山口会長の挨拶に続き、現場事務所において、入澤工事第二課長から谷沢川の整備計画、事業概要について、計画論を交えた丁寧な説明をいただきました。

谷沢川分水路は、内径5.5メートル、延長約3.2キロメートルを泥土圧シールド工法により施工するもので、用賀の到達立坑まで完成済、現在



は放流施設などの工事を実施中でした。説明後、いよいよ分水路本体へと地下に降ります。地下へは、100段の仮設階段を降りなければいけません。参加者ほぼ全員が日頃鍛えた足腰の成果で、スムーズに地下空間へと降りることができました。現場では、発進直後の急曲線施工や二次覆工の仕上がりも素晴らしく、参加者は改めて高い技術力に感心していました。

そして、等々力大橋ですが、分水路工事現場と隣接していることから見学会には好都合な立地です。

等々力大橋



まず、神山工事第一課長から、工事概要の説明があり、橋梁形式選定などの技術論に加え、河川管理者からの非出水期施工や取り付け道路部の難航する用地交渉など厳しい施工条件の説明があり、事業の厳しさをひしひしと感ずることができました。

本橋は、世田谷区と川崎市を結ぶ多摩川にかかる長大橋で橋長385.9メートル 鋼4径間連続箱桁橋で、下部工はニューマチックケーソン工法基礎も採用しております。続いて、多摩川に移動して、現場状況の説明を神山課長からいただきました。

前述のとおり、用地の制約から、橋梁本体は、一部を除く下部工までが完了している状況です。河川管理者の厳しい条件の中でも、工程計画を順守して、橋脚工事を終えたことなどの説明をいただきました。

本箇所の見学を終え、次に分水路の到達立坑現場の用賀へとバス移動いたしました。現地は、首都高速道路の真下で、緻密な計測管理を行いながら、立坑本体まで工事が完了しています。今後、取水施設の整備や管理棟及び設備工事が残っており、完成までにはまだまだ事業が続きます。





谷沢川分水路トンネル内(R20 区間)



等々力大橋



到達立坑(上流側)にて

谷沢川分水路到達立坑(上流側)

最後に林所長から挨拶があり、参加したボランティアの多くは民間会社の肩書を持っており、東京都とは車の両輪として今後も協力いただきたいとの温かいお言葉を頂き、丁寧かつ分かりやすい説明を頂いた二建職員と一緒に記念撮影を行い、滞りなく見学会が終了いたしました。



等々力大橋(パース)

四建班 齊藤俊之



トンネルに描かれた
地元小学生の絵

盛況だった 「橋と土木展」

11月21日から23日までの3日間、新宿駅西口イベントコーナーで「橋と土木展」が開催されました。リニア中央新幹線などを展示する土木学会主催の土木コレクションも同時に開催されていました。「橋と土木展」では無電柱化などの局事業や横浜と大阪の橋が紹介されていたほか、今年のテーマは「橋の魅力を知る」とのことで、橋を描いた浮世絵や、橋梁模型、パネルなどが展示されていました。



ボランティアには勝鬨橋関連展示物の来場者対応が割り当てられました。現役の職員が半日交代のところ、ボランティアは2時間交代と配慮して頂きました。勝鬨橋の模型の近くで来場者の質問に答えるほか、人がいなくなったときには、模型を動かすスイッチを入れると子どもさんが親を連れて見に来て、それにつられて見る人が増えるため、あまり途切れることなく模型を見て貰えました。



勝鬨橋の模型の隣には、橋梁ライトアップのパネルや、築地大橋の架設工事などの動画、聖橋の模型などが展示されていました。聖橋の説明は土木と建築の融合に焦点が当てられ、「私はこの

橋が好きなんです」などと話されながら、熱心に模型やパネルを見て行かれる方が何人もおられました。



私が参加したのが土曜日だったためか、一般の方に加え局OBの方も多く会場を訪れていました。普段、眼にすることがない江戸時代から明治時代の橋梁を描いた浮世絵を熱心に見て行かれる方が多かったです。

当日は3本の講演が行われ、トリアは道路整備保全公社の紅林章央さんの「浮世絵に描かれた橋」でした。席がすべて埋まったうえに、立ち見の方も多という盛況でした。



盛り沢山の展示で、職員の方は大変な苦勞をされて準備をされたのだと思います。私自身、これまで見たことのないものも多く見せて頂きましたし、展示物の話をしながら見ていかれる方も多くいらっしゃいました。「橋と土木展」が成功裏に終わったことに、準備をされてきた職員の皆さんに謝意を表したいと思います。

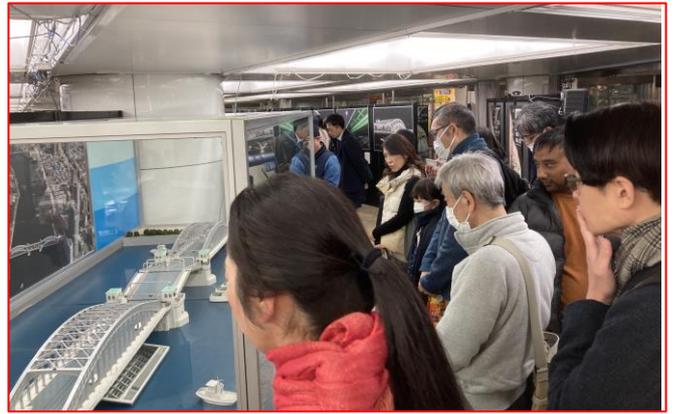
二建班 高尾弘幸



子供に人気の
フラレール

「橋と土木展」 ボランティア協会参加者(敬称略)

開催日	10～11:30	13～15時	15～17時
11.21(木)	—	西村行正	菅谷正志
11.22(金)	—	島津哲也	谷村秀樹
11.23(土)	永井伸芳	高尾弘幸	相場淳司



紅林さん所有の貴重な橋の資料や「浮世絵」も展示されました。



西村さん 菅谷さん



谷村さん 島津さん



土セン・黒川主任 高尾さん



三者が協働 「ミニツアー研修会」

勝鬨橋ミニツアー研修会が11月8日(金)15時から、保全公社会議室で開催されました。秋晴れのもと、来賓の方々や会員40名に建設局、公社の方々を合わせて46名の参加をいただきました。



山口会長

山口会長の挨拶に続いて、御来賓の東京都建設局加藤橋梁構造専門課長及び東京都道路整備保全公社吉野総務部長より、協会への感謝と励ましのご挨拶をいただきました。



加藤橋梁構造専門課長



吉野総務部長

続いて、公社の中村連絡調整担当係長からツアーの開催状況及びアンケート結果などの報告がありました。

次に、10年間継続して案内を担当した3名の方々(柿塚、加藤昌、若尾の各氏)に、会長から感謝状が贈呈されました。



若尾さん 加藤さん 柿塚さん

続く、「勝鬨橋と可動橋」と題する、道路保全公社紅林室長の講演は、明治から続く可動橋の歴史と勝鬨橋完成までの経過について、興味深い資料を交えお話いただきました。今後のツアー運営に大変参考になるものでした。ありがとうございました。

研修会終了後の5時半から、一庁32階食堂で開催された意見交換会は、会員32名に加え、建設局、公社の方々9名にも参加いただきました。



受講の様子

横井副会長の挨拶、上田道路管理部長の「参加者には、錆びたりベットを見てもらいたいが塗装工事中で残念です」とのお話の後、清水一建副所長の乾杯で始まり、途中ご出席された道路管理部、保全公社の方々の紹介がありました。



上田道路管理部長



清水一建副所長

三者が集まっての懇親会では、あちこちで歓談の輪ができ、会話に花が咲き、大変盛り上がるなか、今宮無電柱化推進担当部長の中締めでお開きとなりました。

改めて、この研修会を共催する建設局、道路整備保全公社、ボランティア協会のミニツアーの関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。

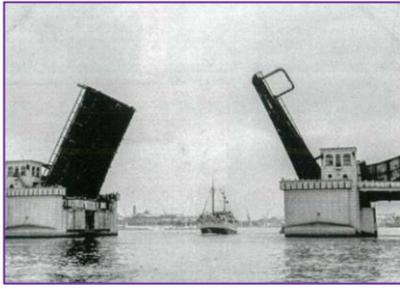
そして、

勝鬨橋ミニツアーをもっと盛りあげたい！

どうすればもっとミニツアーを盛りあげられるのか。

その答えを求めて今回の研修会に参加しました。ツアー参加者の感想や勝鬨橋の講演を聴くにつけ、今後活かせるであろう多くの情報を得ることができました。記憶に留めたいとの思いで今一度、研修会を振り返ってみたいと思います。

先ず、公社からのミニツアー開催状況の報告では、参加者アンケートによると反省させられる意見もありました。マイクが途切れ気味で説明が聞き取れない。案内場所に皆が到着してから説明を始



めてほしい。誘導の先頭にも案内のガイドを配置してほしい。など、残念ですが確かにそんな場面

もあったなど、思い当たります。

また、最近の橋梁技術も知りたい、土日の開催も考えてほしい、との要望もありました。

反面、説明が分かりやすい。案内者が複数いて安心して見学ができた。貴重な機械の実物が見られて大満足。これまで大変な労力をかけて橋を守ってくれて感謝。など、主催者を勇気づける言葉も多くありました。

参加者延べ人数は、今年9月末時点でなんと9,583人。ミニツアーが大きな成果を挙げていることが分かります。皆様がこれまで積み重ねてきた努力の成果であり、誇らしく思います。心から感謝するとともに、引き続き参加者の期待に応えられるミニツアーを目指します。

続いて、紅林さんの「勝鬨橋と可動橋」と題する講演があり、時間の経つのをすっかり忘れるほどに聞き入ってしまいました。可動橋が明治時代より



紅林室長

り日本人の手で架けられてきた歴史や、勝鬨橋の設計が二転三転する経緯には胸がワクワク、あっという間の1時間でした。

跳開橋には片開きと両開きとがあり、耐震性、快適性、経済性、景観を考慮して、その場所に合った形式を選定しています。勝鬨橋も様々な設計案の中から、現地の状況も判断して現在の形式に決まった経緯を知ることができました。橋を架ける位置は地盤の固い場所を選んだこと、基礎については現地調査の結果、杭基礎の一部を直接基礎に変更したことなど、将来の情勢を見据え、車両交通の増加を見越して形式を決めていたのではないかとの、驚くようなお話もありました。

このように、これまで知り得なかった数々の知見を、感動しながら拝聴することができました。講師に心より感謝申し上げます。今後ツアー案内の際には、ぜひ説明に加えていきます。

今回の研修会も、中身の充実した素晴らしい内容でした。感謝申し上げます。これからも、喜ばれる「勝鬨橋ミニツアー」を目指し、さらに盛り上げていきたいと思っています。

一建班 多澤秀信

ミニツアー20周年に向けて

勝鬨橋ミニツアーも、来年度で20年目を迎え、参加者も10,000人の大台に近づきつつあります。『喜ばれるミニツアー』の更なる発展に向けてなによりもツアー参加者本位のご案内に留意し大いに盛り上げていきましょう！

引き続きのご協力を、よろしくお願い致します！

ミニツアー担当理事一同

懇親会 (於:1F 32F食堂)



横井副会長





新の情報、バックナンバー、建設局報などが載っていますので、積極적으로ご活用ください。なお、建設局報の閲覧には、パスワード「kyokuhou」の入力が必要です。

編集後記

2024年は1月1日の能登地震に始まり、9月には復旧も進まないなか能登半島豪雨が発生し、世界的にも大雨や洪水、干ばつ、高温など、地球規模で異常気象が発生しています。

4月から6月にかけてブラジル、アフガニスタン、アラブ首長国連邦、中国広東省などでは記録的な大雨と広範囲にわたる洪水が発生し多くの人々が被災しました。

一方で、パリオリンピックとパラリンピックでの日本選手の活躍、大谷選手のMLBでの大活躍など多くの感動がありました。

今年は巳年です。脱皮をする蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味するとのこと。

植物に種子ができればはじめる時期、次の生命が誕生する時期など、新しいことが始まる年になると言われています。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われるようです。

2025年が「ミ」のある一年となりますよう祈念致します。

Y・N

協会からのお知らせ

- ① イベント等の開催予定
 - ・1月10日(金) 18:00～
「感謝の会」一庁 32F
 - ・2月4日(火) 建設局初動対応訓練
- ② 各班の活動報告をお待ちします。ぜひ下記編集担当理事又は西村まで原稿をお送りください。
西村アドレス(iwana-246ra@outlook.com)
- ③ 協会のH.P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板 <http://tokyo-adv2.info/>)には、最

発行人 山口明
発行 東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
(公財)東京都道路整備保全公社内
編集 加藤基雄、佐野正生、高橋紀男、
西村行正、林幹生

